

日本分子生物学会・第44回年会運営に
ついてのアンケート 集計結果

回答者数: 951名

質問1.44回年会に参加されましたか

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 参加した(横浜会場で)	393	41.3%							
回答2 参加した(オンラインで)	296	31.1%							
回答3 参加した(横浜会場+オンラインの両方で)	226	23.8%							
回答4 参加しなかった	36	3.8%							
合計	951								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問2.あなたのポジションは

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 学部学生	35	3.7%							
回答2 大学院生	260	27.3%							
回答3 ポスドク等非常勤研究者	87	9.1%							
回答4 企業研究者	35	3.7%							
回答5 大学・研究所等の常勤研究者	512	53.8%							
回答6 その他	22	2.3%							
合計	951								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問3.あなたの年齢は

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 19歳以下	1	0.1%							
回答2 20-24歳	161	16.9%							
回答3 25-29歳	132	13.9%							
回答4 30-34歳	76	8.0%							
回答5 35-39歳	75	7.9%							
回答6 40-44歳	120	12.6%							
回答7 45-49歳	115	12.1%							
回答8 50-54歳	116	12.2%							
回答9 55-59歳	97	10.2%							
回答10 60-64歳	45	4.7%							
回答11 65-69歳	9	0.9%							
回答12 70歳以上	3	0.3%							
回答13 回答しない	1	0.1%							
合計	951								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問4.所属する学会について <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 日本分子生物学会	884	93.0%						
回答2 日本生化学会	188	19.8%						
回答3 日本細胞生物学会	78	8.2%						
回答4 日本癌学会	93	9.8%						
回答5 日本発生生物学会	66	6.9%						
回答6 日本神経科学学会	51	5.4%						
回答7 日本農芸化学会	50	5.3%						
回答8 日本遺伝学会	32	3.4%						
回答9 日本免疫学会	33	3.5%						
回答10 日本生物物理学会	28	2.9%						
回答11 日本植物生理学会	36	3.8%						
回答12 その他	270	28.4%						
合計	1,809							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問5.シンポジウムについて <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 テーマは適切である	753	79.2%						
回答2 テーマが偏っている	62	6.5%						
回答3 (オンライン発表者も含め)海外からのシンポジストの数は適切であった	216	22.7%						
回答4 海外からのシンポジストはもっと増やしたほうがよい	139	14.6%						
回答5 (オーガナイザー・発表者として)ハイブリッド年会での質疑は問題なく行えると感じた	102	10.7%						
回答6 (オーガナイザー・発表者として)ハイブリッド年会での質疑に難しさを感じた	44	4.6%						
回答7 (参加者として)ハイブリッド年会での質疑は問題なく行えると感じた	348	36.6%						
回答8 (参加者として)ハイブリッド年会での質疑に難しさを感じた	155	16.3%						
回答9 特になし	108	11.4%						
回答10 その他	68	7.2%						
合計	1,995							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問6.ワークショップについて <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 テーマ・セッション数ともに適切である	619	65.1%							
回答2 テーマ・セッション数ともによくない	30	3.2%							
回答3 ワークショップの時間は135分枠と90分枠があり、全体的にちょうどよい長さだと感じた	273	28.7%							
回答4 ワークショップの時間は全体的にもっと長い方がよい	38	4.0%							
回答5 ワークショップの時間は全体的にもっと短くてよい	46	4.8%							
回答6 (オーガナイザー・発表者として)ハイブリッド年会での質疑は問題なく行えると感じた	103	10.8%							
回答7 (オーガナイザー・発表者として)ハイブリッド年会での質疑に難しさを感じた	40	4.2%							
回答8 (参加者として)ハイブリッド年会での質疑は問題なく行えると感じた	294	30.9%							
回答9 (参加者として)ハイブリッド年会での質疑に難しさを感じた	108	11.4%							
回答10 特になし	118	12.4%							
回答11 その他	97	10.2%							
合計	1,766								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問7.ポスターディスカッサー制について <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 ディスカッサー制はよかった	218	22.9%							
回答2 ディスカッサー制はよくなかった	84	8.8%							
回答3 ディスカッサーが議論のあまり盛り上がっていない演題のみを重点的に適宜回することで、全体的に活発な議論がなされたと思う	109	11.5%							
回答4 ディスカッサーはコアタイムを設定して全担当演題に回るほうがよかったと思う	82	8.6%							
回答5 今後できるだけポスターセッションにディスカッサー制を取り入れてほしい	132	13.9%							
回答6 特になし	419	44.1%							
回答7 その他	130	13.7%							
合計	1,174								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問8.一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 オンサイト(横浜会場)でのポスター発表はよかった	529	55.6%						
回答2 オンサイト(横浜会場)でのポスター発表はよくなかった	26	2.7%						
回答3 オンラインでのポスター発表はよかった	99	10.4%						
回答4 オンラインでのポスター発表はよくなかった	297	31.2%						
回答5 ポスターセッションの時間はちょうどよい長さだ	270	28.4%						
回答6 ポスターセッションの時間はもっと長い方がよい	66	6.9%						
回答7 ポスターセッションの時間はもっと短くてよい	45	4.7%						
回答8 特になし	151	15.9%						
回答9 その他	221	23.2%						
合計	1,704							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問9. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて(※) <複数回答可>

※今年の年会では2日目に一日通してほとんどの会場で一日中英語セッションが行われるようにし、その他の日程も常にどこかの会場で英語のシンポジウムが行われるようにプログラム編成しました

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 全体的にバランスがよかった	472	49.6%						
回答2 2日目に一日通してほとんどの会場で英語の講演を集めたことはよかった	64	6.7%						
回答3 2日目に一日通してほとんどの会場で英語の講演を集めたことに不満が残った	57	6.0%						
回答4 2日目に英語の講演を集める一方で、日本語で聞けるセッションもあったことはよかった	177	18.6%						
回答5 英語のシンポジウムを全日程に配置したことはよかった	156	16.4%						
回答6 英語のシンポジウムは特定の時間帯に固めて配置したほうがよかった	33	3.5%						
回答7 オンライン参加のみだとセッション間のインターバル(あき時間)は長く感じた	44	4.6%						
回答8 オンライン参加のみだとセッション間のインターバル(あき時間)は短く感じた	14	1.5%						
回答9 一般演題(ポスター発表)が午後一番の時間帯であることはよかった	247	26.0%						
回答10 一般演題(ポスター発表)が午後一番の時間帯であることに不満が残った	22	2.3%						
回答11 ワークショップの時間帯の配置(午前・夕方)はよかった	172	18.1%						
回答12 ワークショップの時間帯の配置(午前・夕方)に不満が残った	48	5.0%						
回答13 オンライン参加のみだったので、どの時間帯にワークショップやポスターセッションが来るかはあまり気にならなかった	98	10.3%						
回答14 その他	80	8.4%						
合計	1,684							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問10.フォーラムについて <複数回答可>

項目	件数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%						
回答1	271	28.5%							
回答2	9	0.9%							
回答3	548	57.6%							
回答4	33	3.5%							
回答5	108	11.4%							
回答6	61	6.4%							
回答7	54	5.7%							
合計	1,084								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問11.年会・学会の企画や取り組みについて、良かったと思うものにチェックしてください <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 横浜会場の感染対策:「安心ステッカー」発行 & 所持者へのドリンク/スナック提供	390	41.0%						
回答2 横浜会場の感染対策: 無料抗原検査サービスの実施	278	29.2%						
回答3 横浜会場の感染対策: 会場レイアウトや感染防止対策設備・会場スタッフの対応	298	31.3%						
回答4 富澤基金メモリアル企画(歴代助成対象者約50名によるポスター発表・ワークショップ)	66	6.9%						
回答5 横浜ヒストリア企画(歴代横浜年会長インタビュー冊子配布・関連展示)	76	8.0%						
回答6 市民公開講座「生命科学研究を職業にする」	73	7.7%						
回答7 2021年会応援ソング「毎日がPCR」(作詞: 小林武彦、作曲/ギター: 胡桃坂仁志)	129	13.6%						
回答8 EMBO-MBSJ企画(EMBO-Japan Virtual Lecture・EMBO-MBSJ合同フォーラム: EU留学と若手キャリアアップ)	86	9.0%						
回答9 年会特別企画『緊急フォーラム!! 我が国の研究基盤の活性化への挑戦』	59	6.2%						
回答10 キャリアパス委員会企画ランチタイムセミナー	115	12.1%						
回答11 研究倫理委員会企画ランチオンセミナー	78	8.2%						
回答12 高校生発表	168	17.7%						
回答13 学会誌Genes to Cellsカバーアート展示	93	9.8%						
回答14 特になし	245	25.8%						
回答15 その他	58	6.1%						
合計	2,212							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問12.企業展示会・バイオテクノロジーセミナー（横浜会場・オンライン会場）について〈複数回答可〉

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 横浜会場:よかった	443	46.6%							
回答2 横浜会場:よくなかった	12	1.3%							
回答3 オンライン会場:よかった	100	10.5%							
回答4 オンライン会場:よくなかった	45	4.7%							
回答5 オンサイトとオンラインの企業展示にはそれぞれ異なるメリットがあり、どちらも続けてほしい	78	8.2%							
回答6 オンライン企業展示やオンラインランチテクニカルセミナーへ参加することに、オンサイトの時ほどのメリットは感じなかった	48	5.0%							
回答7 オンサイトとオンラインの企業展示どちらにも参加しなかった	148	15.6%							
回答8 特になし	225	23.7%							
回答9 要望・その他	40	4.2%							
合計	1,139								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問13.年会の発表言語について（本年会では、シンポジウム:英語、ワークショップ:オーガナイザーに一任）〈複数回答可〉

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 シンポジウム・ワークショップには日本語のセッションも入れてほしい	416	43.7%							
回答2 シンポジウム・ワークショップの言語は、発表はすべて英語でも良いが、質疑に関しては適宜日本語使用を許可したり、オーガナイザーに訳や補足を入れるなどの配慮してほしい	355	37.3%							
回答3 シンポジウム・ワークショップの言語は、英語字幕が入るなら発表はすべて英語でも良い	117	12.3%							
回答4 シンポジウム・ワークショップのスライドは英語または日英併記など英語圏の参加者に配慮しつつ、発表言語は英語にこだわらず徹底的に議論できる場とすることを最優先すべき	379	39.9%							
回答5 その他	116	12.2%							
合計	1,383								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問14.年会の視聴サイトや、各種マニュアル・ビデオ通話機能を用いたポスター発表の体験会開催といった事前の対応、当日のトラブル対応など、ハイブリッド年会のオンラインサポート体制についてお聞きます <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 視聴サイトは全体的にわかりやすく、使いやすかった	356	37.4%							
回答2 視聴サイトはわかりにくく、使いにくい点があった	432	45.4%							
回答3 発表者として、事前の発表データ登録や当日の発表・質疑の対応まで、問題なく行うことができ、運営側のサポートは適切であったと思う	99	10.4%							
回答4 発表者として、事前の発表データ登録や当日の発表・質疑の対応まで、トラブル解決に困難を感じ、運営側のサポートが足りなかったと思う	34	3.6%							
回答5 参加者として、希望のセッションを問題なく視聴することができ、運営側のサポートは適切であったと思う	194	20.4%							
回答6 参加者として、希望のセッションを視聴するまでのトラブル解決に困難を感じ、運営側のサポートが足りなかったと思う	57	6.0%							
回答7 その他	191	20.1%							
合計	1,363								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問15.年会オンライン視聴のためのツールのうち、よかったと思うものについてお聞きます <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 Zoom Webinar(オンライン講演会場)	658	69.2%							
回答2 視聴サイト(AGRI SMILE社Online Conf)のビデオ通話機能(オンラインポスターセッションに使用)	83	8.7%							
回答3 視聴サイトの発表資料PDFに加えショートトーク動画も事前に登録できる機能	131	13.8%							
回答4 視聴サイトのコメント機能(掲示板で公開メッセージのやりとりができる)	176	18.5%							
回答5 視聴サイトの質問機能(発表者へ非公開メッセージを送ることができる)	134	14.1%							
回答6 視聴サイトのプログラム検索・要旨閲覧機能	168	17.7%							
回答7 その他	147	15.5%							
合計	1,497								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問16. 本年会は、長引くコロナ禍で先の見通しが難しい中、オンサイト開催に基軸を置いたハイブリッド開催の準備を余儀なくされ大きな支出が見込まれる一方、協賛企業の出展が相当数減少しました。そこで本年会では経費節約のため年会プログラム集冊子や年会アプリ、オンサイト会場で配布していたポケット判プログラムを作成しませんでした。またそれに伴い、会員の皆様にはプログラム集冊子に同封発送していた学会会報(年3回発行)の11月号も印刷版作成を見送っています。これらについてお聞きします <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 年会ホームページのプログラム簡易版PDFと、視聴サイトのプログラム検索・要旨閲覧機能があったので、会期前・会期中いずれも、プログラム集冊子版がなくても特に不便とは感じなかった	381	40.1%							
回答2 プログラム集冊子版がないことに不便を感じた	248	26.1%							
回答3 アプリがないことに不便を感じた	344	36.2%							
回答4 ポケット判プログラムがないことに不便を感じた	208	21.9%							
回答5 会報の冊子版は今後すべてとりやめ、PDF版またはメールニュース、学会HPやSNSの拡充などに変更してよいと思う	234	24.6%							
回答6 会報の冊子版は、年会の演題投稿に関する詳細案内が載る夏の号(6月号)だけでも冊子版で送ってほしい	40	4.2%							
回答7 その他	151	15.9%							
合計	1,606								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問17. 今後の年会の開催形式についてお聞きします <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 オンサイト(現地)開催を基本とし、一部のプログラムをオンラインでも参加・視聴可とするのがよい	440	46.3%							
回答2 ハイブリッド開催(オンサイト+オンライン)とし、オンサイトの比重が大きめのほうがよい	350	36.8%							
回答3 ハイブリッド開催(オンサイト+オンライン)とし、オンラインの比重を大きめにし、地方都市もオンサイト会場の選択肢に入れるのがよい	155	16.3%							
回答4 オンサイト開催期間+オンライン開催期間の併用形式とし、オンライン会期を増やすことで同時使用会場数・チャンネル数を双方抑え、地方都市もオンサイト会場の選択肢に入れるのがよい	93	9.8%							
回答5 完全オンサイト開催とし、予算は感染防止対策の強化・プログラム充実等に注力するのがよい	74	7.8%							
回答6 完全オンライン開催とし、予算はコンテンツ充実やセキュリティ強化等に注力するのがよい	47	4.9%							
回答7 その他	101	10.6%							
合計	1,260								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問18. 年会をオンライン開催またはハイブリッド開催(オンサイト+オンライン)とする場合、「未発表データを前に議論したいが、発表資料を不正に複写・撮影等されることへの懸念がある」との声が聞かれます。講演の事後配信や一般演題のポスターデータ掲示についてお聞きします <複数回答可>

項目	件数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%						
回答1 シンポジウム・ワークショップの演者になった場合、発表演題の事後配信は許可しない	379	39.9%							
回答2 シンポジウム・ワークショップの演者になった場合、発表演題の事後配信は許可するが、未発表データを用いた発表はしない	248	26.1%							
回答3 シンポジウム・ワークショップの演者になった場合、発表演題の事後配信を許可し、未発表データを用いた発表はある程度許容できる	144	15.1%							
回答4 一般演題のポスターは、システム上ダウンロードできないようになっているならば、PDFをアップロードすることに抵抗はない、あるいは許容できる	245	25.8%							
回答5 一般演題のポスターは、システム上ダウンロードできないようになっていたとしても、もし発表者が選択できるならオンサイトのみで発表したい	267	28.1%							
回答6 その他	76	8.0%							
合計	1,359								

※割合は回答者数を母数にして算出しています